



気象 × ドローン

日本気象協会は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の「ロボット・ドローンが活躍する省エネルギー社会の実現プロジェクト（DRESSプロジェクト）」の中で、「ドローン向け気象情報提供機能の研究開発」を行っています。

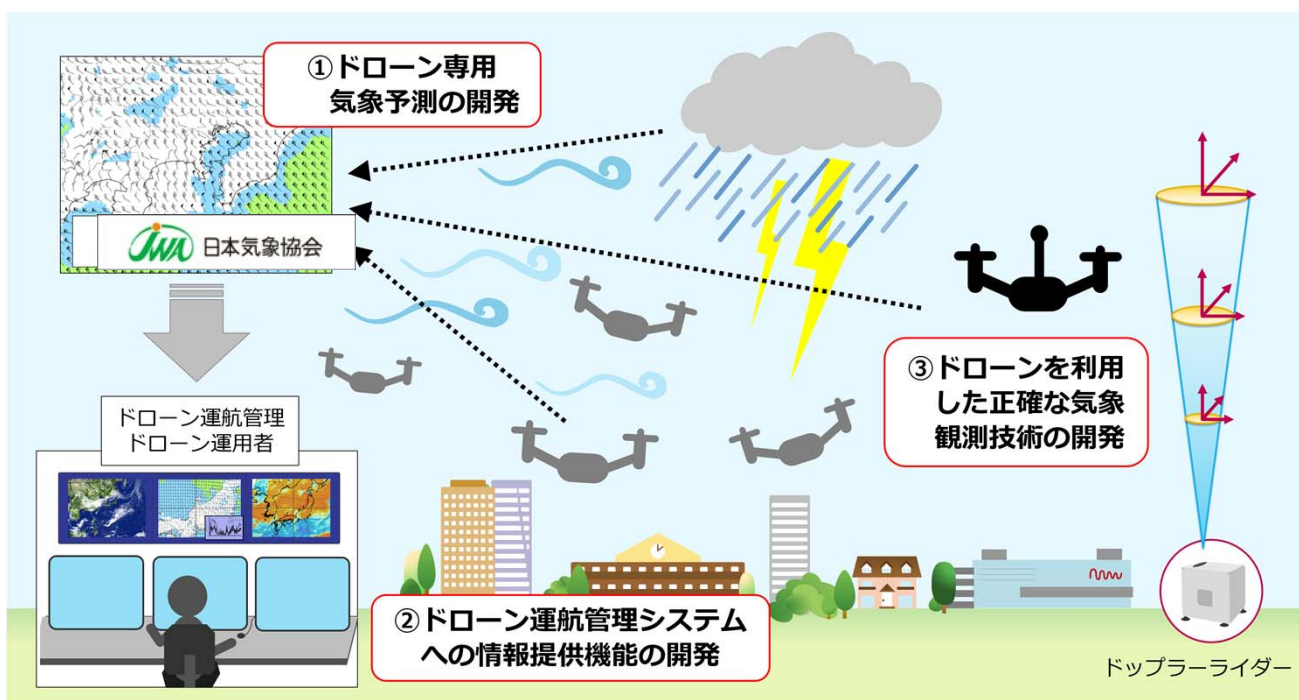
ドローン運航管理向け気象情報の研究開発を実施！

物流、インフラ点検、災害対応などの分野で活用が期待されているドローン。これらの産業用ドローンが日々飛行するようになると、強風・突風や豪雨、雷、霧などの気象現象が、安全で安定したドローン運航を妨げる可能性がでてきます。そこで、日本気象協会は「ドローンの気象リスクを詳細かつ正確に推定・予測する技術」と「ドローン運航管理システム（UTM）へ情報提供する技術」をNEDO DRESSプロジェクトで開発しています。

有人機向けの航空気象情報は、予測する高度が高く、空間・時間の解像度が粗いため、ドローンのような小型無人機向けの情報としては不十分です。そこで、日本気象協会は、高度0～150mでの高解像度・高時間分解の気象予測の開発を進めています。

【NEDO DRESSプロジェクトでの研究開発項目】

- ① ドローン専用気象予測の開発（高度0～150m、短時間気象予測（ナウキャスト）の開発）
- ② ドローン運航管理システム（UTM）への情報提供機能の開発
- ③ ドローンを利用した正確な気象観測技術の開発



▲ドローン運航管理に必要な気象情報提供に向けた日本気象協会の取り組み

本事業は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の事業において実施するものです。